

バーチャル留学の経験 デイビッド・ノエル

みなさんは、新しい技術を習得しようとしている時、頭の中でなにかが閃く瞬間を経験したことがありますか。例えば、初めて自転車に乗れた瞬間とか、ついに泳ぎ方を学んだ瞬間などです。私は、日本語を勉強している時に、この「閃き」を経験したことがあります。

去年の夏、私はバーチャル留学に参加しました。バーチャル留学では、日本の授業にアメリカからオンラインで参加します。日本語の勉強を始めて以来、成績がとてもよかったし、日本語の能力に自信があったので、このプログラムをとても楽しみにしていました。しかし、振り返ってみると少し自信がつきすぎていたかもしれません。

プログラムの初日を迎^{むか}えました。でも、授業は、何と全て日本語でした。今となってはどうして英語だと思っていたのか分かりません。でも、その時は「大丈夫、大丈夫」と自分に言いかけました。

次の日は日本人の会話パートナーと初めて会話の練習をしました。パートナーは、私に「専攻は何ですか」「兄弟が何人いますか」といった簡単な質問をしました。でも、なぜか頭が真っ白になって、知っている単語が頭から消えてしまいました。後で先生は私に「どんな話をしましたか」と聞いてきました。そして、ほんの5分前にパートナーと話したことが思い出せませんでした。

クラスの後ですごく恥ずかしくて悔^ゃしかったです。もうここで諦めたかったです。でも、それから、突然頭とつぜんの中で閃^{ひら}めきました。自分が思っているより、自分の知識の量は少ないのです。

この考えが閃いた後で、だれにもまけないくらい日本語のコンテンツを読んで日本語の能力を磨くことを決めました。もっと漢字を学ぶために漢字学習ソフトを使うようになりました。そして、日本語でマンガを読み始めました。私の知識は毎日どんどん増えています。でも、自分の知らないことの方がずっと多いのです。この教訓はいつまでも私の心に残るでしょう。